

構成を意識して書き、分かりやすく伝えることができる子の育成  
～3年「朝日小ピクトグラムコンテストを開こう」の実践を通して～

刈谷市立朝日小学校 渡部 早紀

## 1 主題設定の理由

本学級の子どもたちは、発言の意欲が高く、自分の考えを伝えたいという気持ちが強い。授業中に指名されると、その意欲から息の長い発言をする子が多くいる。1学期に学習した「ほけんだよりを読みくらべよう」では、文章を読み比べて、読みやすくするための工夫や分かりやすく伝えるための工夫を見つける活動を行った。そこでは、子どもたちは、伝えたいことを分かりやすく書くと、読み手に伝わりやすいという工夫に気付くことができた。

しかし、実際に自分で文章を書いてみると「ほけんだよりを読みくらべよう」で見つけた、分かりやすく伝えるための工夫を生かして書くことができていなかったり、学んだことをすべて伝えようとするあまり、要点が絞れずに長い文になってしまったり、何を伝えたいのか分かりづらい文章になったりしていた。そこで、今年はオリンピックが開催される年であり、子どもたちの中でオリンピックへの期待感が高まっていると感じたことから、オリンピックで使用されるピクトグラムを授業で取り上げることで意欲をもって書き方の良さを学び、その後自分で作ったピクトグラムの説明文が書けるであろうと考えた。

以上のような実態から、本単元では、ピクトグラムについての説明文を読み比べたり、書いた文章を互いに評価したりすることで、書く内容を選択し、読む人に分かりやすい文章が書けるようになってほしいと願い実践に取り組むこととした。

## 2 研究の目標

### (1) 目指す児童像

構成を意識して書き、分かりやすく伝えることができる子

### (2) 仮説

仮説1 教師作成のモデル文を読み比べて、分かりやすく書くポイントを見つける場を設けることで、文章の書き方の良さに気づくことができるだろう。

仮説2 構成を意識して書くことができるレベル別のワークシートを使うことで、自分の力で分かりやすい文章が書けるようになるだろう。

仮説3 文章を書き直す段階において、書いた文章の自己評価の活動を取り入れることで、自分の文章を見直すことができるだろう。

### (3) 仮説を受けての具体的な手だて

- ① 分かりやすい文章が書けるように、教師が作成したモデル文（読みやすい文章と読みづらい文章）を読み比べる活動を通して、説明文を書くポイントを整理する。
- ② トピックセンテンスや書く内容を意識できるように、子どもの実態に合わせた、レベル別の複数のワークシートを用意する。
- ③ 書いた文章の改善点を見つけることができるように、書かれた内容や書き方について自己評価を行う場を設ける。

④ 朝日小ピクトグラムを書く際、実際に操作しながら考えられるように、可動式のピクトグラムを用意する。

#### (4) 教材について

本教材「理由を分かりやすく書こう」は、自分の考えと理由を整理し、順序立てて書く力を付けることをねらいとしている。本教材で書かれている説明文は、自分の考えを先に短く述べた上で、理由や詳しい説明を述べるという文章の組み立てになっている。本実践では、オリンピックでも使われているピクトグラムを取り上げていく。ピクトグラムは、書いてある内容を一目で認識できるものである。そのピクトグラムという限られた情報にすることで、説明文を書くことは3年生でもできるであろうと考えた。また、最後には、レクリエーションや放課に何の遊びをするのか一目で分かるピクトグラムを作る。そのピクトグラムの説明文をこれまでに学んできたことを生かして書くという活動を行う。自分が考えたピクトグラムとその理由を文章にしておくためには、ピクトグラムという図から情報を読み取り、自分の体験と結び付けて考えたり、図と文章との関連を考えて書いたりすることが大切である。教材、単元を通して、自分の考えを読み手に分かりやすく伝えることができるようにさせたい。

### 3 実践と考察

#### (1) ピクトグラムって何だろう

子どもたちにとって説明文を書くことは、ハードルがとても高いと考える。そこで、日本で行われるオリンピックと関連づけ、そこで使われている「ピクトグラム」を提示した。「ピクトグラム」とは、一目で内容が伝わる絵文字である。導入として、6種類の競技のピクトグラムを提示しながら、ピクトグラムのクイズを行った。子どもたちは、すぐにそれが何の競技であるのか理解することができた。そこで、自分の経験や図の情報から何を表現しているのかを考え、発表させた。子どもたちは、「ボールを打つ道具が分かるよ」「先が曲がっているね」「打った後のポーズだ」など、情報を正しくピクトグラムから読み取ることができた。その後、クラスで使う遊びのピクトグラム「朝日小ピクトグラム」を作成し、それを説明するコンテストを行うことを伝えた。子どもたちは、コンテストを楽しみにする表情の子もいれば、説明文を書くことに不安を感じる表情の子もいた。

#### (2) ポイントを見つける場の設定

全員でバスケットボールのピクトグラムの分析をした後、ピクトグラムの工夫されているところを説明文で書かせた(資料1)。子どもたちは、道具や人の動きに着目して説明文を書いた。どの説明文も一文が長かったり、内容が偏っていたりした。

そこで、書く内容を選択し、分かりやすい文章を書けるようになってほしいと考え、教師が作った読みやすい文章と読みづらい文章を読み比べる活動を行った。子どもたちは、「1つ目は、」「2つ目は、」という「順番を表す言葉」があると分かりやすいことや、「なぜならば」「しかも」など「理由やくわしい説明」があること、「一つの文が短い」と分かりやすいということに気づいた。



<p>わたしは、バスケットボールが好きなので、バスケットボールのピクトグラムを作りました。</p> <p>シュートをうっている場面にしました。ゴールをかきました。バスケットボールは、ボールも手に持って行うスポーツだから人がボールを持っているところをかきました。人がゴールに向かってとんでいて人が点を取るためにゴールにとんでいるところを表現しました。</p> <p>ぜひ、わたしのピクトグラムを選んでください。よろしく願います。</p>	<p>わたしは、バスケットボールが好きなので、バスケットボールのピクトグラムを作りました。</p> <p>二つ目は、ゴールがあることです。しかも、人より高い位置にかきました。</p> <p>三つ目は、人がボールを持っていることです。バスケットボールは、ボールを手で持つて行うスポーツです。</p> <p>四つ目は、人がゴールに向かってとんでいることです。人が点を取るために、ゴールにとんでいるところを表現しました。</p> <p>ぜひ、わたしのピクトグラムを選んでください。よろしく願います。</p>
---	--

資料2 読み比べたモデル文

右：分かりやすい説明文 左：分かりづらい説明文

どんな内容が書かれているかを考える際には、1つ目には「場面」、2つ目には「位置」、3つ目には「道具」、4つ目には「人の動き」について書いてあることを確認した。

書き方には、「順番を表す言葉がある」「トピックセンテンス（短い文章で言いたいことが最初に書いてあること）」「理由や詳しい説明がある」、内容には「場面」「道具」「位置」「動き」が必要だとまとめ、振り返りの項目とした。

分かりやすい文章を書くためのポイントをまとめた後、前時で書いたバスケットボールのピクトグラムの説明文の自己評価を行った。児童Aは、悩みながらも自分の説明文を読みながら自己評価を書いた。書くポイントを確認することで、説明文を評価する基準を明確にすることができた。

（3）ポイントを知り、自己評価を行う場の設定

児童Aは、自己評価が正確に行えていないことが分かった。次に生かすための評価にしていくためには、書くポイントを理解すること、自分の文章にどのような内容が書かれているのかを認識することが大切だと考えた。

まず、書くポイントの理解を深めるため、前時の読み比べのモデル文を提示し、書き方のポイントのキーワードを考えさせた。「順番を表す言葉」「理由や詳しい説明」のキーワードは、すぐに気づくことができた。しかし、「トピックセンテンス」になると、児童Aはモデル文を何度も読み直しても、分からない様子で首をかしげている。そこで、トピックセンテンスの意味は、「自分のいちばん言いたいことを短い1つの文で、最初に言うこと」と確認を行った。トピックセンテンスは、人によって違うが「段落の最初にくる」という特徴を見つけることができた。

書くポイントを理解したところで、書いてある文章を内容ごとに分けるために「場

面」、「道具」、「位置」「動き」で色分けする活動を行った。

まず、モデル文で「場面」「道具」「位置」「動き」が書かれている部分を探し、意見交流をした。『「場面」という言葉があるから場面』『「高い位置にある』って書いてあるから位置』というように文中にある言葉を根拠に意見が発表された。児童Aも、『「ボール」という言葉があるからオレンジは、道具のことだと思う』と発表し、書くポイントの理解を深めていった。

その後、自分の書いた説明文に書かれている内容を色分けし、自己評価する時間とした。児童Aが最初の自己評価で△をつけたのは、「順番を表す言葉がある」のみ

で、他の項目は○、◎と、書いていなくても「できた」と判断していた。ポイントを確認した後の自己評価では、

「順番を表す言葉がある」の他に、「理由やくわしい説明がある」にも△と評価した。また、「場面」「トピックセンテンス」は◎から○へ変わっている。書くポイントを確認したため、何ができていて、何ができていないのか自分が書いた説明文を正しく自己評価できるようになった。(資料3)

振り返りには、「理由・順番を表すことが△だった」

『「○1つ目』『○2つ目』のように、(段落を)あけて書けるようになりたい』と書き、児童Aは、自己評価を行うことで、「順番を表す言葉」「トピックセンテンス」という次回に向けての二つの課題を見つけることができた。

#### (4) 自分の説明文をよりよい説明文へ

最初に書いた説明文は、文が長かったり、内容が重複したりして、読みづらい文章になっている子が多くいた。そこで、書き直しでは、トピックセンテンスや内容を意識させるためのレベル別のワークシートを準備した。

レベル1のワークシートには、「場面」「動き」「道具」「位置」の、どの内容を書いているのか丸をつける欄、トピックセンテンスを書く欄、理由を書く欄を設けた。

児童Aは、初めに書いた説明文では、人の動きについて「人がジャンプしている」「バスケットボールのせんしゅは、ユニホームを着ていて」「ゴールにボールを入れる」「シュートする」と、4つのことを書いたが、すべてを一文で書いていた。そのため伝えたいことが分かりづらかった。また、「ゴールにボールを入れる」「シュートする」という内容の重複もある。しかし、レベル1のワークシートを使うと、4つの内容が短く整理されて書かれていた。自分が何を書いているのか理解できるようにな

内容	①	②
場面	◎	○
道具	◎	◎
位置	○	○
動き	◎	◎
書き方		
順番を表す言葉がある(1つ目、2つ目…)	△	△
トピックセンテンス	◎	○
理由やくわしい説明がある	○	△

資料3 児童Aの評価シートの変化  
①書くポイントを押さえる前 ②押さえた後

ったため、内容の重複がない、読みやすい文章にすることができた。また、「人がジャンプしている」「シュートをする」という少ない内容であった説明文が「シュートをうっている場面」「ボールをもっている」「ゴールがある」「人がシュートをうとうとしている」という4つの内容で書くことができた。(資料4)

<p>あだしはバスケットボールのピクトグラムを作りました。わたしは人をエッジとして作りました。</p> <p>なびかという人と人がジャンプしている体の部分がいびくてもれかユニホームだと思つてバスケットボールのせんしはユニホームをまいてゴールはボールを入れるからシュートするからです。</p>	➔	<p>理由 人が点を取るために手を上げてシュートしようとしてい</p> <p>《場面・動き・道具・いち》 四つ目は人がジャンプしようとしてい</p> <p>理由 人よりも高いいすにあります。</p> <p>《場面・動き・道具・いち》 三つ目はゴールが有ることで</p> <p>理由 ボールを持って行うスポーツだからです。</p> <p>《場面・動き・道具・いち》 二つ目はボールをもっていること</p> <p>理由 ボールをゴールの中に入れてとく点をさそうからボールがはみで</p> <p>《場面・動き・道具・いち》 一つ目はシュートをうっている場面にし</p>
---	---	---

資料4 バスケットボールの説明文の変容 (レベル1)

左：初めに書いた説明文 右：ワークシートを使った説明文

(5) 朝日小ピクトグラムコンテストに向けて

朝日小ピクトグラムで表す遊びを決めるため、どんな遊びがあるかを挙げさせた。だるまさんが転んだやバナナ鬼など外で行う遊びと、ハンカチ落としやイス取りゲームなど、室内で行う遊びが入るように絞り、同じくらいの数に分かれて考えられるようグループを分けた。

児童Aは、だるまさんが転んだを選び、朝日小ピクトグラムを作り始めた。まず、児童Aは、稼働式ピクトグラムを動かし、走っている姿や顔に手を当てている姿を表現していた。動かしながら場面を決めたようで木を書き始めた。その後、目に手を当てているピクトグラム作った。最初ピクトグラムより木が小さく、児童Aはピクトグラムを下に下げて顔の高さを調節していたが、ふと気づいて木を消し、代わりに大きな木を描いた。さらに、できたピクトグラムを眺めたあと、逃げる人を描き加えた。ピクトグラムが完成すると、児童Aは、説明文を書き始めた。書く内容には、「場面」「道具」「動き」を選んだ。

1つ目の「場面」には、『「だるまさんが転んだ。」と言う場面』と書いた。ピクトグラムを操作しながら、走っている場面や「だるまさんが転んだ」と言っている場面などを選択したことが分かる。

2つ目の「道具」には、「木があること」と書いた。木の大きさについては、ピクトグラムピクトグラムの大きさを考慮して大きく木を描いていた。

3つ目の「動き」には、「にげがおににむかって歩いている」と書いた。木の大きさにこだわりながら、ピクトグラムピクトグラムを作ったことで、説明文の工夫を考えることができた。(資料5、6)

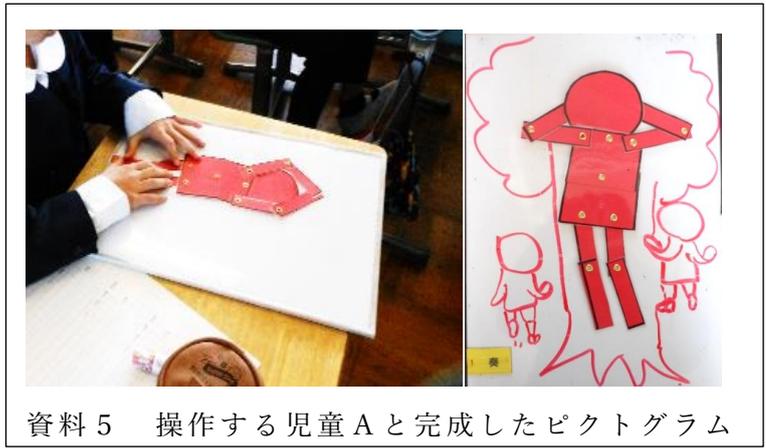
単元の振り返りには、児童Aは「思ったことをつづけて書いていたので読みにくかったけど、だん落や「1つ目」を付けることで読みやすくなった」と書いた。バスケットボールの説明文をワークシートに書き直す活動で、児童Aは、読みやすい文章にするために、内容を整理する経験をした。この経験をしたことで、段落を付けたり、順序を表す言葉を入れたりして、構成を意識した書き方が大切であるということを知っていることが振り返りから分かる。また、「文章は、どんなことを書くかも大事」ということを書いている。このことから、内容が重複していた児童Aが、書く内容を絞って文章を書くことで、分かりやすい文章になることを知ることが資料7から分かる。

#### 4 成果と課題

##### (1) 研究の成果

##### ○仮説1について

児童Aの最初のバスケットボールのピクトグラムピクトグラムの説明文は、段落もなく、内容が整理されていなかったり、同じことが2回書かれていたりして、分かりづらい文章になっていた。しかし、教師作成のモデル文を読み比べ、説明文の書き方のポイントを押さえ、レベル別のワークシートに書き直したことで、児童Aは、内容が整理され分かりやすい文章を書くことができた。



資料5 操作する児童Aと完成したピクトグラム

にげがたふまをたふさ  
しようとしている地はせん

中										はじめ	
よう	さ	三		人	二	タ	ん	だ	一	場	わたしは、(だんまさんかころんだのピクトグラムを)作りま した。したところは、畑つあります。 工夫したところは、畑つあります。
う	か	つ		よ	つ	ッ	が	ど	つ	面	
に	ら	月		り	目	子	こ	こ	目	・	
し	ど	は		大	は	す	ろ	言	動	・	
こ	す	は		き	休	る	ん	う	き	・	
い	た	に		く	が	ケ	だ	場	い	・	
の	げ	げ		し	あ	ー	た	面	ち	・	
と	が	が		ま	る	4	か	で	ま	・	
身	お	お		し	と	た	ら	さ	ま	・	
を	お	に		た	と	ら	ど	す	ま	・	
わ	と	に		。	ろ	ど	す	間	ま	・	
し	タ	む			ど	す	。	に	ま	・	
ま	ツ	ハ			。	。		だ	ま	・	
し	チ	ッ			。			る	ま	・	
こ	し	て			。			ま	さ	・	
い	こ	歩			。			と	ん	・	
る	い	て			。					・	

資料6 児童Aが書いたレベル2のワークシートを使った説明文

一つ目は今の文章のように、「一つ目」「二つ目」や「だん落」で  
 す。いいしよは、思ったことをつづけて書いていたの  
 で読みにくかったけど、だん落や「一つ目」を付け  
 ることで読みやすくなったので、すぐく文章の中  
 で大事なことが分かりました。

資料7 児童Aの振り返り

た。

○仮説2について

バスケットボールの説明文を書き直す際にレベル別のワークシートを準備した。また、遊びのピクトグラムの説明文も同じワークシートを使って書かせた。児童が達成しているレベルごとにワークシートを変えることで、トピックセンテンスや構成を意識して文章を書くことができた。

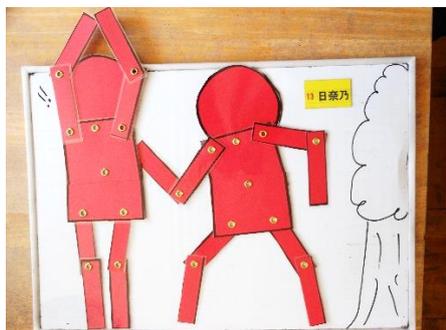
○仮説3について

書き方のポイントを確認した後、自分の書いた説明文を読みながら、自己評価を行った。児童Aは、「順番を表す言葉」「トピックセンテンス」という自身の課題を見つけることができた。文章を書き直す段階において、書いた文章の自己評価活動を取り入れたことで、自分の文章を見直すことができた。

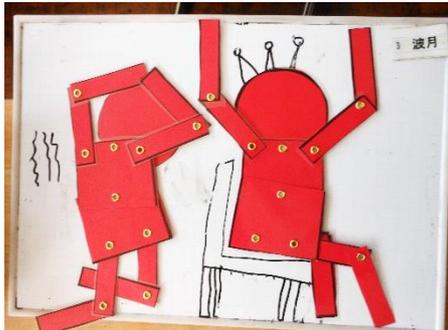
(2) 今後の課題

レベル別のワークシートを使うことで文章を書く練習を重ねてきた。しかし、クラスのほとんどがレベル1のワークシートで終わってしまい、レベル3のワークシートで書くことができるようになったのは、数名である。原稿用紙でも構成を意識しながら書けるようになるための手立てを講じる必要があると感じた。

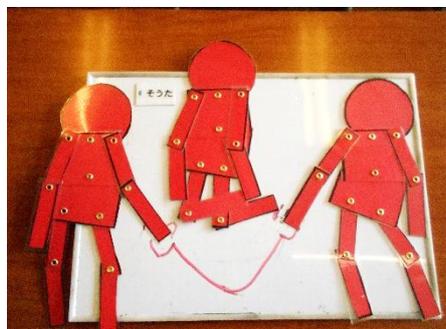
参考資料：子どもたちが作ったピクトグラム



バナナ鬼



いす取りゲーム



長縄

参考資料（単元計画）

時	学 習 活 動 ・ 学 習 内 容	教 師 支 援
出 会 う ・ つ か む	<p>朝日小ピクトグラムを作ろう①</p> <p>○ピクトグラムのクイズをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを打つ道具が分かるよ。ゴルフかな</li> <li>・ボードの上に人が乗っているからサーフボードかな。</li> </ul> <p>○ピクトグラムは何のためにあるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな人に分かりやすくするため</li> <li>・外国の人でも分かりやすくするため</li> <li>・一目で何か分かるようにするため。</li> </ul>	<p>教師支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな種類のピクトグラムを見せて、何を表しているのか考えさせる。</li> <li>・朝ピクトを作り、朝ピクトコンテストを行うことを知らせ、意欲を高める。</li> </ul>
伝 え 合 う ・ 深 め る	<p style="text-align: center;"><b>ピクトグラムの説明を分かりやすく書けるようにしよう。</b></p> <p>バスケットボールのピクトグラムの説明文を書こう②</p> <p>○ピクトグラムが表しているものは何かを考え、そう考えた理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットゴールが頭の上にあるからです。</li> <li>・人がボールを持っていて、頭より上にあげているからです。</li> </ul> <p>○ピクトグラムの分かりやすいところを説明する文章を書く。</p> <p>文を読み比べて、分かりやすい文章について考えよう③</p> <p>○分かりやすい説明文と分かりづらい文を読み比べて、読みやすいか、読みやすいかと思ったところを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1つ目は、2つ目は」と最初に付いているので、何番目なのかすぐに分かりました。</li> <li>・最初に「理由が3つあります」と書いてあるので3つあるんだなあと分かりました。</li> <li>・1つの文章が長いと分かりづらかったけど、1つの文が短いから読みやすかったよ。</li> </ul> <p>○自分の説明文の文章がポイントに合っているかを確認する。</p> <p>自分の説明文を直して、分かりやすい文章にしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の位置を書くことができなかったから、道具の高い位置という言葉を入れよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすくするための工夫を「書かれている道具」「人の動き」「位置」「場面」に分けて板書する。</li> <li>・ピクトグラムのパーツは何を表しているか書き込めるように、絵を載せたワークシートを配る。</li> <li>・分かりやすい説明文と分かりづらい説明文を掲示し、読みやすい文章と読みづらい文章では、「1つ目は、」の後は短い文があり、その後は詳しい説明が付いていることを押さえる。（トピックセンテンス）</li> <li>・書きためのポイントを押さえる。〈書き方〉</li> <li>・トピックセンテンス</li> <li>・「1つ目は、2つ目は、3つ目は」</li> <li>・理由や説明が書いてある</li> <li>〈内容〉</li> <li>・工夫（場面、道具、位置、動き）が書かれている</li> <li>・自己評価がしやすいよう評価シートを用意する。</li> <li>・評価シートをもとに足りないポイントを書き込み完成させる。</li> <li>・ペア同士でチェックする。</li> </ul>
生 か す ・ 広 げ る	<p>遊びのピクトグラムの説明文を書こう④</p> <p>○休み時間や遊びで行っている遊びは、どんな遊びがあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー</li> <li>・ドッジボール</li> <li>・氷鬼</li> <li>・けいどろ</li> </ul> <p>○選んだ遊びの特徴や場面を考え、説明文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーボールは、ボールを蹴っている瞬間を説明しようかな。サッカーのボールは、足の前に転がっていくようにしよう。</li> </ul> <p>○グループで説明文の評価をする。</p> <p>朝日小ピクトグラムコンテストを開こう⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の朝日小ピクトグラムのいい所を分かりやすく伝えるために、トピックセンテンスに気を付けて文章を書くことができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや休み時間に行っている遊びを発表し、その中からコンテストに出すピクトグラムの遊びを選ぶ。</li> <li>・遊びの「場面」「位置」「動き」「使っている道具」を想像し、説明文にするように声をかける。</li> <li>・説明文を書いた後、図工の時間にピクトグラムを作成する。</li> <li>・グループで友達の説明文を読み合い、評価シートを使って評価をする。</li> <li>・コンテストで選ばれた朝ピクトは、実際に教室内で使えるようにする。</li> <li>・競技ごとにグループを作り、グループの中でコンテストを行う。</li> </ul>